

5 英 語

1 編集の具体的方針

盲学校中学部英語科で使用する教科書は、文部省検定教科書の一つである NEW HORIZON English Course (東京書籍) を原典とし、点字を触読する生徒の学習場面を配慮して編集したものである。そのため、教科書の内容は原典にほぼ忠実に点訳したが、絵などを用いた「基本練習」などでは、生徒に理解しやすい形式に改めた。注意すべき変更点は資料3にまとめている。

表紙裏などの付録の配列順序や、各 Unit の内容の割り付け順序などは、点字触読の観点から多少変更してあるが、主な内容の提示順序は、原典と同じである。

また、「資料編」は、第1巻が「英語点字の入門」(「英語点字略字の解説」を含む。)、第2巻が「英語の基本的知識」、第3巻が「英会話のための用例と単語」、第4巻と第5巻は「英和単語集」で構成されている。英語点字の概説は資料4に掲載している。

日本語の点字表記の規則については、日本点字委員会編集・発行の「日本点字表記法 2001年版」の本則に従っている。

英語の点字表記についてはアメリカの国会図書館が発行している“English Braille American Edition”(1994 Revised 2002)によるとともに、発音記号については Daniel Jones 式の記号を点字表記したものを使用した。なお、この教科書では [r] がアメリカでは発音され、イギリスでは発音されない事を示すために [r] という記号が用いられ、[j] がアメリカでは発音されず、イギリスでは発音される事を示すために [j] の記号が用いられている。そこで、これらを点字で表記するために ⠠ の点を [r] や [j] に前置して示している。

2 編集の具体的内容

(1) 各巻の分け方

第1学年＝全3巻、第2学年＝全3巻、第3学年＝全3巻とした。

1-1, 2及び3 この段階では英語点字略字は使用しなかった。

2-1 この巻から点字略字として1マスの短縮語(one - cell whole - word contractions) — but, can, and, child, this などのように単語全体を1マスの記号で表したものの34個を使用した。and, for, of, the, with の短縮語及び a は、意味の続き具合に関係なくマスを続けて書くことができるが、この巻からこの原則を取り入れた。

2-2 この巻から2マスの短縮語(initial - letter contractions) — day, word, cannot などのように単語全体を前置点と頭文字などを組み合わせた2マスの記号で表したものの33個を追加した。

2-3 この巻では省略語(abbreviations) — about, above, could, myself, receive などのような単語を一部の綴り字で表したものの76個を表示し、必要なものから使用した。なお、用法として、これらの省略語を単語の一部として使用する場合を含む。

3-1 この巻から下がり記号の短縮語(whole - word lower - sign contractions) — be, to など単語全体を下がり記号で表すもの9個を使用した。

3-2 この巻から1マスの短縮語(one - cell part - word contractions) — and, ch, ble などのように単語の一部の綴り字を1マスの記号で表したものの18個と、2マスの短縮部(two - cell final - letter contractions) — ound, - ment, - ation のように単語の語中や語尾の綴り字群を、前置点と組み合わせた2マスの記号で表すもの14個を追加した。

3-3 下がり記号の短縮部(part - word lower - sign contractions) — dis, - ea -, - bb - のように単語の一部の綴り字群を下がり記号で表すもの10個を追加した。

(2) 各巻における内容の配列

1-1

世界のことばで“Hello ! ”and“Thank you ! ”

アルファベット一覧

この教科書の主な登場人物

この教科書で学習するみなさんへ

Book 1 Unit 年間学習目標

Book 1 Plus 年間学習目標
Hello, English! 教室で使われる英語
Hello, English! 身のまわりの英語
Hello, English! アルファベット
Hello, English! 単語
Unit 1 ようこそ, グリーン先生
Unit 2 学校で
まとめと練習 ① be 動詞
単語・文の書き方
Word Box ① 数字
付録資料編 ④ 巻末 Tool Box
Book 1 WORD LIST

1-2

Unit 3 グリーン先生の初授業
まとめと練習 ② 一般動詞
Listening Plus ① 何のCM?
Unit 4 日本大好き
Multi Plus ① わたしの自己紹介
Speaking Plus ① 忘れ物
Unit 5 ピクニックに行こう
Word Box ② 曜日
Unit 6 グリーン家の人々
まとめと練習 ③ 三人称単数現在形
Listening Plus ② 友達のプロフィール
Speaking Plus ② 道案内
題材情報 Welcome to Canada!
Unit 7 カナダの学校
付録資料編 ① Further Reading
Writing Plus ① 学校のホームページ

1-3

Unit 8 はじめてのカナダ旅行
まとめと練習 ④ 代名詞
Listening Plus ③ 海外旅行
Unit 9 クリスマスがやってきた
まとめと練習 ⑤ 進行形
Multi Plus ② わたしの一
Speaking Plus ③ 電話の会話
Unit 10 ナイアガラの滝
まとめと練習 ⑥ 疑問詞
Word Box ③ 月日
Listening Plus ④ ふしぎな夢
Speaking Plus ④ ちょっとお願い
Unit 11 それぞれのお正月
まとめと練習 ⑦ 一般動詞の過去形
Listening Plus ⑤ ある日曜日
Writing Plus ② 絵はがき
Let's Read The Hungry Lion
英語の歌 Beautiful Sunday
英語の歌 Sailing
付録資料編 ② アルファベットの書き方・読み方
付録資料編 ③ 手紙・はがきの書き方
付録資料編 ⑤ 「特集」ジェスチャー

付録資料編 ⑥ 朝起きてから寝るまで

2-1

英語点字略字の解説 I

この教科書の主な登場人物

この教科書で学習するみなさんへ

Book 2 Unit 年間学習目標

Book 2 Plus 年間学習目標

Warm-up A Speech and a Game

題材情報 Ballparks in the U. S. A.

Unit 1 Baseball Friends

Listening Plus ① スポーツインタビュー

Writing Plus ① 日記

題材情報 Mysteries in Easter Island

Unit 2 Emi Goes Abroad

Listening Plus ② 海外旅行

まとめと練習 ① いろいろな時制

英語の歌 ① Stand by Me

英語の歌 ① 500 Miles

Speaking Plus ① 先生にお願い

付録資料編 ③ 巻末 Tool Box

Book 1 - 2 WORD LIST

2-2

英語点字略字の解説 II

題材情報 Cultures in Asia

Unit 3 E-pals in Asia

Listening Plus ③ 家事アンケート

Writing Plus ② メール

Multi Plus ① わたしの夢

Let's Read ① A Magic Box

Let's Chat ① たずね返し方, あいづちのうち方

Multi Plus ② わたしの夏休み

Unit 4 Homestay in the United States

Listening Plus ④ 慎のホームステイ

まとめと練習 ② 助動詞

Weather Report

Speaking Plus ② 電話の会話

Unit 5 A Park or a Parking Area?

Listening Plus ⑤ テレビ番組

Speaking Plus ③ 病院で

不規則動詞変化表

2-3

英語点字略字の解説 III

Unit 6 The Story of *Silent Night*

Listening Plus ⑥ クリスマスコンサート

Speaking Plus ④ 道案内

Multi Plus ③ わたしの町

Let's Read ② Try to Be the Only One

Let's Chat ② コメントのしかた

Writing Plus ③ グリーティングカード

Unit 7 My Favorite Movie

Listening Plus ⑦ 映画ヒットチャート

まとめと練習 ③ 比較表現

英語の歌 ② Happy Christmas
英語の歌 ② I Just Called to Say I Love You
Speaking Plus ⑤ 買い物
Multi Plus ④ わたしの好きなこと・もの
Let's Read ③ Can Anyone Hear Me ?
Let's Chat ③ 賛成・反対のしかた
形容詞・副詞比較変化表
付録資料編 ① Further Reading
付録資料編 ② Multi Plus Reading
付録資料編 ④ Hints for Reading
付録資料編 ⑤ [特集] 海外旅行
付録資料編 ⑥ 英語って簡単！

3 - 1

英語点字略字の解説Ⅳ
この教科書の主な登場人物
この教科書で学習するみなさんへ
Book 3 Unit 年間学習目標
Book 3 Plus 年間学習目標
Warm - up A Speech and a Game
Unit 1 Let's Learn Braille
Listening Plus ① ボランティア活動
Multi Plus ① わたしの日本文化紹介
付録資料編 ③ 巻末 Tool Box
Book 1 - 3 WORD LIST

3 - 2

英語点字略字の解説Ⅴ
Unit 2 The *Shamisen* Concert
Listening Plus ② ニュースレポート
Multi Plus ② わたしの修学旅行
Unit 3 Our Sister in Nepal
Listening Plus ③ ネパールについて知ろう
まとめと練習 ① 過去分詞
Speaking Plus ① コンサートへ行こう
Multi Plus ③ わたしの詩
Let's Read ① A Mother's Lullaby
Let's Chat ① 話の切り出し方
Speaking Plus ② 食卓で
Unit 4 An American *Rakugo - Ka*
Listening Plus ④ 落語家ビル・クラウリー
まとめと練習 ② 不定詞
英語の歌 ① We Are the World
Speaking Plus ③ 道案内

3 - 3

英語点字略字の解説Ⅵ
Unit 5 Cell Phones — For or Against ?
Listening Plus ⑤ 優先席にすわってもよい？
Writing Plus ① 意見の主張
Unit 6 20th Century Greats
Listening Plus ⑥ 20世紀のスター
まとめと練習 ③ 後置修飾
英語の歌 ② Hero
Speaking Plus ④ 電話の会話

Multi Plus ④ わたしのスキット作り
 Let's Read ② Family Rules
 Let's Chat ② ことばのつなぎ方
 Writing Plus ② 卒業記念の寄せ書き
 Let's Read ③ The Fall of Freddie the Leaf
 Let's Chat ③ 確かめ方
 Book 1 - 3 基本文のまとめ
 Book 1 - 3 基本表現のまとめ
 不規則動詞変化表
 形容詞・副詞比較変化表
 付録資料編 ① Further Reading
 付録資料編 ② Multi Plus Reading
 付録資料編 ④ Hints for Reading
 付録資料編 ⑤ [特集] 年中行事
 付録資料編 ⑥ 前置詞をさがしに ...

(3) 資料編の構成

資料編 第1巻 (英語点字の入門)

英語点字の入門について

- ① 点字の配列表
- ② アルファベットと発音
- ③ ローマ字の書き方
- ④ 句読符と点字独特の記号
- ⑤ 発音記号の書き方
- ⑥ 音節の区切り方
- ⑦ 主な接頭辞と接尾辞
- ⑧ 英語点字略字の解説 I
- ⑨ 英語点字略字の解説 II
- ⑩ 英語点字略字の解説 III
- ⑪ 英語点字略字の解説 IV
- ⑫ 英語点字略字の解説 V
- ⑬ 英語点字略字の解説 VI
- ⑭ 英語点字略字段階別一覧表
- ⑮ 英語点字略字アルファベット順一覧表
- ⑯ 英語点字略字字形別一覧表

資料編 第2巻 (英語の基本的知識)

英語の基本的知識について

- ① 英語の発音方法
- ② 英語の発音とつづり字
- ③ 英語の基本文例
- ④ 英語の修飾語と修飾される語との関係
- ⑤ 語源から単語を覚える方法
- ⑥ 中学基本英単語・熟語 (品詞別・類別)
- ⑦ 国名・地域名に関する語

資料編 第3巻 (英会話のための用例と単語)

- ① 英会話の用例
 - (ア) 紹介 (Introduction)
 - (イ) 学校案内 (Showing around the School)
 - (ウ) 盲学校と点字 (School for the Blind and Braille)
 - (エ) 通学と寄宿舎 (Coming to School and the Dormitory)
 - (オ) ある日の英語の授業 (English Class at a Day)
 - (カ) 学校給食 (School Lunch)

- (キ) 盲人スポーツ紹介 (Sports for the Blind)
- (ク) 夏休みの思い出 (Memories of the Summer Vacation)
- (ケ) 修学旅行にて (On a School Trip)
- (コ) 将来の夢 (Future Dreams)

② 英会話で活用できる単語

- (ア) 盲学校で使われる身近な語
- (イ) 体の部分と健康に関する語
- (ウ) 衣食住に関する語
- (エ) 自然現象に関する語
- (オ) 環境に関する語
- (カ) 人間関係に関する語
- (キ) 情報に関する語
- (ク) 国名・地域名に関する語
- (ケ) 頭字略語

資料編 第4巻 (英和単語集)

① 英和単語集について

② A～L

資料編 第5巻 (英和単語集)

① M～Z

(4) 本文

本文は原典において1行あいているときは、点字教科書においても行あけした。本文におけるイタリック体の語句は、第1学年、第2学年にあってはコーテーション・マーク (⠠～⠡) でくくり、第3学年にあってはイタリック符 (⠢～⠣) を前置した。

登場人物名が日本語であるときは、次のようにした。

(例：1年 P.42)

□□⠠テンイン⠠⠠⠠ Large or small ?

□□ Mike ⠠⠠ Large, please.

(5) 語句

「覚えない語句」、「その他の語句」は、本文の前(リード文のあるときは、リード文のあと)に置き、語(句)ごとに改行した。フルスペリング、(□⠠⠠□を記してから)新出略字の順とした。語(句)に訳語が付されているときは、その訳語を第1カギ(⠠～⠡)でくくり、訳語中の()は第1カッコ(⠠～⠡)で、[]は第2カッコ(⠢～⠣)でくくった。

原典において、語、縮約形、熟語の変わるところに点線が引いてあるが(例：1年 P.10)、点字教科書においては1行あけた。

「覚えない語句」と「その他の語句」が一つのページに同時にある場合(例：1年 P.84)は、その間に②の点を10マスを入れた。

「覚えない語句」や Tool Box の単語中の「単語の中で最も強く発音するところ」を示す▼(例：1年 P.8, guitar の a に付されている▼)は省略した。

(6) 基本文

基本文(例：1年 P.10 I am Emi.)の左または右に書かれている説明文は、基本文のあとに記した。基本文の前の行と説明文のあとの行に②の点を10マスを入れた。

(7) その他の点字触読上の配慮

① 本文の前に、円形の中に色分けをして日本語の出ている場合は、次のようにした。

(例：2年 P.37)

□□⠠⠠⠠⠠⠠⠠□サクヤ, □「ハラハラ□タイム」, □ミタ?

□□⠠⠠⠠⠠⠠⠠□ミタ, □ミタ, □アヤワ?

② 2年、3年において、基本文とその説明文のあとにある赤色の→は、

「練習」という語に置き換えた(例：2年 P.4)。→が二つ以上あるとき(例：2年 P.76)は、

「練習1」「練習2」のようにした。

- ③ 「基本練習」に付されている強弱を示す●, ●は, 省略した (例: 1年 P.36)。
- ④ Sound Box 内の上げ調子を示す(/) (例: 1年 P.31), 下がり調子を示す(\) (例: 1年 P.55), 音のつながりを示すために下に付されている弧線 (例: 1年 P.97), 「単語の中で最も強く発音するところ」を示す▼ (例: 2年 P.63), 文の区切りを示す / (例: 2年 P.45) は, 点図で表記した。
- ⑤ ページ欄外下の発音は, 次のように示した。

(例: 1年 P.40)

□□□□ハツオン

□□^{ːː}^{ːː}^{ːː}□^{ːː}^{ːː}^{ːː}□^{ːː}^{ːː}^{ːː} th ^{ːː} ank □□^{ːː}^{ːː}^{ːː} th ^{ːː} irteen

□□^{ːː}^{ːː}^{ːː}□^{ːː}^{ːː}^{ːː}□^{ːː}^{ːː}^{ːː} th ^{ːː} is □□^{ːː}^{ːː}^{ːː} th ^{ːː} at

(8) WORD LIST

WORD LIST の訳語は第1カギ (ːː~ːː) で, 訳語中の () は第1カッコ (ːː~ːː) で, [] は第2カッコ (ːːːː~ːːːː) で, 【 】 は第2カギ (ːːːː~ːːːː) でくくった。

WORD LIST の品詞表示において, (カン) は冠詞を, (カ) は間投詞を示す。

原典において, 特に覚えたい語であることを示す太字, 「学習指導要領」で指定されている語であることを示す◆, 既習学年やページを表す数字は省略した。

(9) 表紙見返しの記事, 及び写真, さし絵, 図などの扱い

各学年の表紙見返しの記事, 及び写真, さし絵, 図などは, 内容と直接かかわりのある教材の個所に移したことがある。「2 編集の具体的内容, (2) 各巻における内容の配列」を参照されたい。

(10) ページ数

1-1 では, Unit 1 から1ページを打ち始め, その前の記事は「マエ1」「マエ3」... のように記した。その他の巻は, 目次の次から1ページを打ち始めた。

1-1, 2-1, および3-1の巻末のWORD LISTは, 「ゴク1」「ゴク3」... のように記した。

点字教科書のページは, 奇数右ページの右上欄外に示した。また, 原典のページは奇数右ページの左上欄外にːː~ːːにはさんで示した。その場合原典のページは各学年とも, Unit 1 からWORD LIST の前までのものを示す。

なお, 「資料編」のページの打ち方は, 第1巻, 第2巻及び第3巻についてはそれぞれ「1. 点字の配列表」, 「1. 英語の発音方法」, 「1. 英会話の用例」からページを改め, 第4巻及び第5巻の英和単語集については通しページとした。

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
1年 2年 3年	1	学習内容について 巻末TB	削除修正	「巻末では、教科書本文で学習した語句、基本文、基本表現、コミュニケーション活動の内容が一覧できます。」を、「第1巻の巻末では、Book 1 Unit 年間学習目標、Book 1 Plus 年間学習目標の内容が一覧でき、第3巻の巻末では教科書本文で学習した語句、基本文の内容が一覧できます。」に、削除修正した。 「巻末資料編4に、本文の Tool Box よりもたくさんの単語集があることを表します。」を、「第1巻にあり、本文の Tool Box よりもたくさんの単語集があることを表します。」に、削除修正した。	学習しやすくするため。
1年	6	絵	削除	「かくれた大文字をさがしましょう」の絵は削除した。	盲生徒の実態に即して。
	7	絵 絵	削除 削除 修正	「かくれた小文字をさがしましょう」の絵は削除した。 「次の単語は、それぞれどう読むと思いますか？」の5つの絵を削除、言葉で修正した（ペン、ミルク、イヌ、バス、ネコ）。	盲生徒の実態に即して。
	8~9	絵	削除 修正	A~Z までのそれぞれの単語のスペルの後に、それぞれの意味を補足した。	生徒に理解しやすくするため。
	21	単語の書き方	削除	「①文字と文字の間があきすぎたり、つまりすぎたりしないように注意しましょう」の文と例を削除した。	盲生徒の実態に即して。
	29	絵	削除 修正	「Listen」の1~3のそれぞれの絵を削除し、言葉で説明した。 1. (A) アメリカ (B) オーストラリア 2. (A) テニス (B) サッカー 3. (A) ギター (B) ピアノ	生徒に理解しやすくするため。
	32	絵	削除 修正	基本練習の3つの絵を削除し、それぞれの絵の説明をした。 「例」イヌ 1. 電車 2. かさ	生徒に理解しやすくするため。
	42	絵	削除 修正	基本練習の3つの絵を削除し、それぞれの単語の説明を加えた。 「例」2本のペン 1. 3つの机 2. 3台のバス	生徒に理解しやすくするため。
	51	写真説明	修正	写真の説明 写真1. リサはテニスをしています。 写真2. リサはイヌと遊んでいます。 写真3. リサはピアノをひいています。 写真4. リサはドライブをしています。	生徒に理解しやすくするため。
	52	○×	修正	基本練習の○×を言葉で補足説明した。 「例」サッカーをする (○) 1. 英語を話す (○) 2. 自転車を持っている (×)	盲生徒の実態に即して。

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
1年	53	○×	修正	基本練習の○×を言葉で補足説明した。 「例」(教える) math (教えない) science 1. (住んでいる) in Japan (住んでいない) in America 2. (読む) hiragana (読まない) kanji 3. (持っている) a sister (持っていない) a brother	盲生徒の実態に即して。
	60	絵	削除修正	基本練習の時計の絵を言葉で説明した。 「例」9時20分 1. 12時30分 2. 3時15分	生徒に理解しやすくするため。
	68	絵	削除修正	絵を削除し、原典において絵によって示されている登場人物名を言葉によって補っている。	生徒に理解しやすくするため。
		絵	削除修正	基本練習の4つの絵を削除して言葉で説明した。 イヌ, ギター, コーラ, くるま	生徒に理解しやすくするため。
	73	絵	削除修正	「Listen」の絵を削除して、その説明を加えた。 (ア) 女の子がコンピュータを使っています。 (イ) 男の子が英語を勉強しています。 (ウ) 女の子と男の子が昼食を食べています。	生徒に理解しやすくするため。
	74	絵	削除修正	基本練習の絵を削除して、その説明を加えた。 「例」Aya (本を読んでいる) 1. Tom (走っている) 2. Ken (料理をしている)	生徒に理解しやすくするため。
	75	絵	削除修正	「Your Turn」の絵を削除して、その説明を加えた。 「絵の説明」 「Hiroshi」はドライブをしています。 「Kate」はギターをひいています。 「Aya」は音楽を聞いています。 「Rika」と「Maki」はテニスをしています。	生徒に理解しやすくするため。
	76	絵	削除修正	基本練習の絵を削除して、その説明を加えた。 「例」走るな！若葉中学校 1. 泳ぐな 危険！！若葉市 2. 日本語厳禁 ○○英語学校	生徒に理解しやすくするため。
	80	絵	削除修正	Step 1の絵を削除して、それぞれの人名を付けて補足した。 「例」ジュディがマイクに電話をかける。 1. エミがジュディに電話をかける。 2. マイクがエミに電話をかける。	生徒に理解しやすくするため。
	82	○×	修正	基本練習の○×を言葉で修正した。 「例」(Tom)は速く走れるが、(I)は速く走れない。 1. (Kate)はじょうずに泳げるが、(Aya)はじょうずに泳げない。 2. (Ken)はじょうずに英語を話すが、(I)はじょうずに英語を話せない。	盲生徒の実態に即して。

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
1年	89	絵説明	修正	絵の説明 (1) イヌがギターをひいています。 (2) 家の中に男の子とネコが見えます。 (3) ネコは男の子の手伝いをしています。 (4) 短い髪の女の子が本を読んでいます。 (5) 男の子と女の子が虹を渡って歩いています。 (6) シカが虹の下でスキーをしています。	生徒に理解しやすくするため。
	93	絵	削除修正	「Your Turn」の絵を削除して、その説明を加えた。 「例」テレビを見る。 1. 歩いて学校に行く。 2. 勉強をする。	生徒に理解しやすくするため。
	97	絵	削除修正	「Step 1」の絵を削除して、それぞれの絵についての説明を加えた。 (1) 英語を勉強しました。 (2) 友達を訪問しました。 (3) 家で昼食を食べました。 (4) 野球をしました。 (5) コンピュータを使いました。 (6) テレビを見ました。	生徒に理解しやすくするため。
	115	絵	削除	「ドリームキャッチャーを作ろう」の作り方の絵を削除した。	盲生徒の実態に即して。
	116	アルファベット	削除 勘替	アルファベットの書き方・読み方「文字の形に注意しよう！」を「アルファベット一覧」に修正し、「筆記体の続け方」を削除した。	盲生徒の実態に即して。
付録	写真	削除修正		「特集」ジェスチャーの写真を削除して、動作の説明を加えた。 OK. (オーケー) 男の子が右手の親指と人差し指をくっつけて輪を作っている。 Good luck. (がんばってね。) 女の子が人差し指を立て、その後ろに中指を交差している。 Oops ! (おっと！) 男の子が右手を開き、手を顔に向けている。 Bad ! (だめ！) 女の子が右手を握りしめ、親指を下にしている。 Good ! (よし！) 女の子が右手を握りしめ、親指を上になっている。 Be quiet. (シーツ。) 男の子が右手の人差し指を立て、口元に持ってきている。 Come here. (こっちに来て。) 女の子が右手でこちらへ手招きをしている。 I don't know. (わかりません。) 男の子が両手を開き、肩をすくめている。	盲生徒の実態に即して。

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
2年	5	絵	削除修正	絵を削除し、次のような説明を加えた。 (1) トムは12時に食堂で昼食を食べていた。 (2) トムは3時30分に居間で音楽を聞いていた。	盲生徒の実態に即して。
	10	絵	削除修正	絵を削除し、次のような説明を加えた。 (1) 午前中にしたこと一部屋を掃除しました。 (2) 午後にしたこと一買い物に行き、何本か鉛筆を買いました。 (3) 夕食後にしたこと一テレビでソフトボールの試合を観ました。	盲生徒の実態に即して。
		絵	削除修正	絵を削除し、次のような説明を加えた。 (1) どこに行った一友達と若葉川へ行きました。 (2) 何をした一魚釣りをしました。 (3) どうだった一楽しい時を過ごしました。	盲生徒の実態に即して。
	11	絵	削除修正	絵を削除し、次のような説明を加えた。 彩一4月26日(日) 午前中にしたこと一英語を勉強しました。 午後にしたこと一ソフトボールをしました。 夕食後にしたこと一音楽を聞きました。	盲生徒の実態に即して。
		絵	削除修正	絵を削除し、次のような説明を加えた。 健一5月5日(火) どこに行った一東京ドームへ行きました。 何をした一巨人対阪神の試合を見ました。 どうだった一わくわくさせる試合でした。	盲生徒の実態に即して。
	22	グラフ	削除	円グラフを削除した。	盲生徒の実態に即して。
	45	絵	削除修正	絵を削除し、次のような説明を加えた。 A. お父さん、お母さん、姉、弟、おばあさん B. お父さん、お母さん、兄、弟 C. お父さん、お母さん、姉、弟	盲生徒の実態に即して。
	55	絵	削除修正	ニュースの画面を削除し、次のような説明を加えた。 A. 2階建ての駐輪場を公園に作る計画である。 B. 駐輪場を公園の下に作る計画である。 C. レポーターは公園で遊んでいる子供にインタビューをしている。 D. レポーターは事故にあった子供の母親にインタビューをしている。	盲生徒の実態に即して。
	66	絵	削除修正	絵を削除し、次のような説明を加えた。 町には神社があります。 公園は駅の近くにありますが。 町には病院があります。 公園の近くには家があります。 町には郵便局があります。	盲生徒の実態に即して。
	121	地図	削除	ベニスの水路の地図を削除した。	盲生徒の実態に即して。

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
3年	3	絵	削除修正	絵を削除し、次のような説明文を加えた。 3:00の様子 写真が壁に貼ってありました。タマが机の上にいました。サッカーボールが机の右側に、カップが机の左側にありました。次郎ちゃんはニコニコしていました。 4:00(今)の様子 写真が机の上にあります。タマが机の下にいます。サッカーボールが机が左側にあります。カップが床にあります。次郎ちゃんが泣いています。	盲生徒の実態に即して。
	8	絵	削除修正	絵を削除し、次のような説明文を加えた。 1. 日本の手話—「ありがとう」を、左手の甲を上に向け、そこを右手の小指側の側面で軽くたたき上げるように表現します。 2. アメリカの手話—“Thank you”を、まず、右手のひらを自分に向けて、その指をあごにつけ、手のひらが上を向くようにその手を相手の方に向けて前に出して表現します。	盲生徒の実態に即して。
	38	絵	削除修正	絵を削除し、その絵を意味する次のような日本語を加えた。 (例) ケーキ 1. コーラ 2. スープ 3. 紅茶	盲生徒の実態に即して。
	40	絵	削除修正	絵を削除し、次のような説明文を加えた。 (落語での扇子の使い方の説明) eating 一扇子を閉じて、箸のように口に食べ物を運ぶ。 drinking 一扇子を広げて、杯のように飲む。 reading 一扇子を広げて、手紙を読む。	盲生徒の実態に即して。
	44	絵	削除	絵を削除した。	盲生徒の実態に即して。
	58	写真	削除修正	写真を削除し、写真に写っている次のような人名を加えた。 (1) マザー・テレサ (2) 手塚治虫 (3) ペレ (4) ヘレン・ケラー (5) ジョン・レノン	盲生徒の実態に即して。
		絵	削除修正	絵を削除し、その絵を意味する次のような日本語を加えた。 A 時計 B ペン C 水	盲生徒の実態に即して。
	74	絵	削除修正	絵を削除し、参考例として次のような説明文を加えた。 (参考例) 家庭で掃除や食器洗いの手伝い。 電話, ゲーム, 帰宅時間についての規則。 授業中の規則など。	盲生徒の実態に即して。

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
3年	巻末	絵	修正	<p>「前置詞をさがしに…」の1から24の熟語の訳を次のように補った。</p> <p>(1) in the sky 空を, 空には</p> <p>(2) on the bridge 橋の上に (で)</p> <p>(3) under the bridge 橋の下に (で)</p> <p>(4) among the trees 木々の間で (に), 木立の中で (に)</p> <p>(5) between the houses 家と家の間に (で)</p> <p>(6) across the river 川を渡って, 川の向こう側に</p> <p>(7) by the river 川のそばに</p> <p>(8) in the river 川の中に (で)</p> <p>(9) at the bus stop バス停で (に)</p> <p>(10) in front of the station 駅前で (に)</p> <p>(11) off the road 道路からはずれて</p> <p>(12) on the beach 浜辺で (に)</p> <p>(13) on the boat 船の上で (に)</p> <p>(14) on the chair いすの上で (に)</p> <p>(15) on the wall かべに</p> <p>(16) up …の上へ, …を通過して</p> <p>(17) down …の下へ, …を通過して</p> <p>(18) across …を横切って</p> <p>(19) off …から離れて</p> <p>(20) into …の中へ (に)</p> <p>(21) over …を越えて, …以上に</p> <p>(22) to …に, …へ, …まで</p> <p>(23) through …を通り抜けて, …を通して</p> <p>(24) around あちこちに, …の近くで</p>	

3 参考資料 ～英語点字の入門～

英語の点字は、基本的には普通の文字と同じようにアルファベットと句読符から成っている。さらに、点字の読み書きを速くするために、点字独特の略字を加えている。そこで、中学部の第1学年ではアルファベットと句読符を学び、第2学年から第3学年が終了するまでの間に、六つの段階に分けて点字の略字を学ぶことになっている。高等部の教科書及びアメリカやイギリスの書籍では、これらの点字略字がすべて使われているので、中学部の間に、出てきた順序に従って十分に学んでおくことが必要である。この資料では、以下のように英語の点字の基本がまとめられている。さらに、教科書の資料編1～3巻の内容については、文部科学省のホームページで閲覧が可能になる予定なので、そちらを参照して頂きたい。

- (1) 「点字の配列表」
- (2) 「アルファベットと発音」について、解説してある。
- (3) 「句読符と点字独特の記号」
- (4) 「発音記号の書き方」
- (5) から (10) までは、点字略字の第1段階から第6段階までの解説である。

(1) 点字の配列表

6点点字は、1825年にフランス人ルイ・ブライユ (Louis Braille) によって考案された盲人用触読文字である。英語では考案者にちなんで、点字のことをブレイル (Braille) といっている。6点点字は1マス6点であるから、64とおりの組合せとなる。ルイ・ブライユは、マスあけの記号を除いた63を次の7行に配列した。

第1行	⠠	⠡	⠢	⠣	⠤	⠥	⠦	⠧	⠨	⠩
第2行	⠪	⠬	⠭	⠮	⠰	⠱	⠲	⠳	⠵	⠶
第3行	⠷	⠸	⠹	⠺	⠼	⠽	⠾	⠿	⠻	⠼
第4行	⠽	⠿	⠻	⠼	⠽	⠿	⠻	⠼	⠽	⠿
第5行	⠽	⠿	⠻	⠼	⠽	⠿	⠻	⠼	⠽	⠿
第6行	⠼	⠽	⠿	⠻	⠼	⠽				
第7行	⠼	⠽	⠿	⠻	⠼	⠽				

1行目は、上の四つの点の組合せの15の中から、下がり記号と4・5の点だけの組合せを除いたものである。2, 3, 4行目は、1行目の記号にそれぞれ3の点、3・6の点又は6の点を加えたものである。5行目は、1行目と同じ形をそのまま下に下げたものである。このように、1・4の点を用いない記号を下がり記号という。残りの13のうち、3の点を含むものを6行目とし、4・5・6の点の組合せを7行目に配列した。

ルイ・ブライユは、フランス語のアルファベットに1, 2行目と3行目の半分までを当てた。しかし、ここにはWがない。もともとWは、Uがダブった「ダブルU」か、Vがダブった「ダブルV」などとして扱われていたので、記号を当てなかった。後に、英国人の忠告を入れてWを加えたが、それが英語やドイツ語などのアルファベットにも使われるようになった。

5, 6行目の下がり記号は、句読符として用いられ、7行目は、点字独特の記号として用いられている。数字は、1行目に数符を前置して表している。また、楽譜では、1行目から4行目までの最初の3個を除いたものを、それぞれの長さの音符に当てている。また、7行目の記号を、高さを表す音列記号として用いている。

英語の点字略字もこの表をもとに作られている。アルファベットの中からa, i, oを除いたものと、その他の記号から6行目の□⠼□及び7行目の記号を除いたものは、すべて1マスの略字として用いられている。また、7行目の□⠼□以外の六つも2マスの略字の前置点となっている。

さらに、5行目の記号と□⠠□は、句読符として用いられている上に、下がり記号の略字としても用いられている。

なお、日本点字においても、考案者の石川倉次は、この表の1行目から5の点を含むものを除いてア行とし、それに3・5・6の点を組み合わせたものを加えて、その他の各行を作っている。以上述べたことから、この配列表が点字記号の基礎であることは理解されよう。

(2) アルファベットと発音

アルファベットは、東地中海地方で考案され、ギリシア・ローマ時代にヨーロッパ全域に広まった。今では世界各地で用いられ、日本語のローマ字や中国語の音声表記（ピンイン）などに用いられている。

英語では、普通、大文字と小文字が、活字体と筆記体の2通りに表され、これらの4種類は、それぞれ26文字から成る。点字には、活字体と筆記体の区別はなく、大文字と小文字も次のように小文字に大文字符を前置するだけで区別している。

⠁	⠃	⠉	⠇	⠑	⠋	⠒	⠓	⠗	⠚
a	b	c	d	e	f	g	h	i	j
⠅	⠇	⠍	⠏	⠕	⠑	⠒	⠗	⠗	⠞
k	l	m	n	o	p	q	r	s	t
⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠				
u	v	w	x	y	z				
⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠
K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T
⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠				
U	V	W	X	Y	Z				

これらを次の5グループに分けて、アルファベットと発音の関係を学ぼう。

① 長くのばすと「イー」になるもの

⠃	⠉	⠇	⠒	⠑	⠞	⠗	⠚
b	c	d	g	p	t	v	z

これらの読みから後ろの「イー」という音をとると、これらの文字の表す発音になる。

(例)

⠃⠞⠇⠞	⠃⠑⠇	⠉⠞⠞⠞	⠉⠞⠞⠞	⠉⠞⠞⠞	⠉⠞⠞⠞
bat	bed	city	center	desk	
⠃⠞⠞⠞	⠒⠞⠞⠞⠞	⠑⠞⠞⠞	⠑⠞⠞⠞	⠑⠞⠞⠞	⠞⠞⠞⠞
doll	Giants	page	pen	taxi	
⠞⠞⠞⠞	⠞⠞⠞⠞	⠚⠞⠞⠞	⠚⠞⠞⠞		
ten	visit	zero	zoo		

ただし、cには「ク」から「ウ」を、gには「グ」から「ウ」をとった発音がある。

(例)

⠉⠞⠞⠞	⠉⠞⠞⠞	⠒⠞⠞⠞	⠒⠞⠞⠞
car	cook	gas	golf

② 前に「エ」という音がつくもの

⠋	⠇	⠍	⠏	⠗	⠞
f	l	m	n	s	x

これらの読みから前の「エ」という音をとると、これらの文字の表す発音になる。

(例)

⠋⠞⠞⠞	⠋⠞⠞⠞	⠋⠞⠞⠞	⠋⠞⠞⠞	⠋⠞⠞⠞	⠋⠞⠞⠞
fan	fish	like	lip	map	mix
⠋⠞⠞⠞	⠋⠞⠞⠞	⠋⠞⠞⠞	⠋⠞⠞⠞	⠋⠞⠞⠞	
net	next	star	sun	box	

ただし、sは、濁る場合もある。

(例)

⠋⠞⠞⠞	⠋⠞⠞⠞	⠋⠞⠞⠞	⠋⠞⠞⠞
lose	news	nose	rise

③ 後ろに「エイ」という音のつくもの



 j k

これらの読みから後ろの「エイ」という音をとると、これらの文字の表す発音になる。

(例)
 



 jam joke key king

④ 英語の母音を表すもの






 a e i o u

これらが、アルファベットの読みと同じように発音されるとき、その後ろに発音されない e が子音をはさんでつくことが多い。

(例)
 



 cake face scene fine





 life home rose cute use

ただし、発音しない e がついても読みが異なる場合と、e がつかなくても、これらと同じ発音を表す場合がある。

(例)
 



 come done rule April



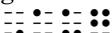

 kind go human music

また、これらの文字は、単独又は二つ以上の組合せでいろいろな発音を表す。

(例)
 




 bat egg ink pot put





 main August sea beauty bee





 field boat coin book pool



 young mountain fruit

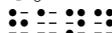
⑤ その他の文字






 h q r w y

これらのうち、h は日本語のハ行に、r はラ行に、w はワ行に、y はヤ行に似た発音を表すこともある。

(例)
 





 hand hint hot red rice run






 wax wet wood yard yes you

これらの文字は、前のグループの文字と組み合わせて、長母音や二重母音又は三重母音を表す場合もある。

(例)
 




 ah oh carpenter hair fire





 born turn saw new town




 day eye boy player

y には i と同じ用い方があり、q は u と組み合わせて用いられる。

(例)
 



 bicycle city my type

queen quickly quite
 h は他の文字に添えて別の子音をも表すことがある。
 (例) church headache ghost enough
 telephone she ship the
 thanks white

⑥ 子音と子音の結び付き

日本語と違って、英語では次のような子音と子音の結び付きがみられる。

(例) back bank camp dress
 little hand sky slip small
 snow song spring stamp
 strong swim text train

中でも、他の文字と l か r の組合せには、特に発音上注意を要する。

(例) block bread class cry close
 cross fly fresh glass
 grass play present

⑦ 発音されない綴り字

英語には、歴史的変化などで発音されない綴り字がある。

(例) bomb eight know lake
 often Wednesday write

(3) 句読符と点字独特の記号

① 句読符 (Punctuation Marks)

英語の単語の綴りは続けて書き、単語と単語の間は1スあけて書く。さらに、それ以上のまとまりで必要な場合、句読符を用いる。点字の句読符の使用法は、普通の文字の場合と同じである。そこでコンピュータのフルキーボードの場合も、その順序に対応する記号のキーを打つだけでよい。

(ア) コンマ □□ (,) (comma)

最も短い句切りに用いる。

(例) I can swim, too.
 (私も泳げます。)

(イ) セミコロン □□ (;) (semicolon)

(例)

Emi ' s bag
(絵美のかばん)

(ク) ハイフン □□ (-)
(hyphen)

複合語などのつなぎに用いる。

(例)

e - mail
(Eメール)

(ケ) ダッシュ □□ (—)
(dash)

文中の追加説明などに用いる。

(例)

Apples, bananas, and oranges — these
are his favorite fruits.
(りんご, バナナ, そしてオレンジ, これらは彼の好きな果物です。)

(コ) 丸括弧 □□ ()
(parenthesis)

語句の注記や部分強調又は部分省略などに用いる。

(例)

year (s)

(サ) 角括弧 □□ []
(bracket)

語句の注記などに用いる。

(例)

[see page 2]
(2ページを見なさい。)

(シ) コーテーションマーク □□ “ ”
(quotation mark)

会話などの引用に用いる。

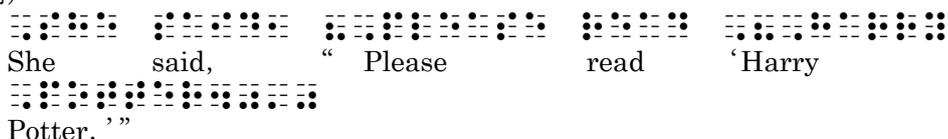
(例)

He said, “I am a cat.”
(「我輩は猫である」と彼は言った。)

(ス) インナーコーテーションマーク □□ ‘ ’
(inner quotation mark)

引用中の引用に用いる。

(例)



 She said, " Please read 'Harry

 Potter.'"

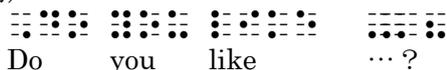
(彼女は、「『ハリー・ポッター』をお読みなさい。」と言った。)

(セ) エリプシス  (…)

(ellipsis)

単語や文字などの省略に用いる。

(例)



 Do you like …?

(あなたは…が好きですか。)

② 点字独特の記号 

 (Special Braille Composition

signs)

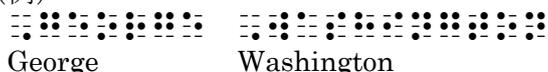
点字は、普通の文字のように文字の形や大きさを変えられないので、これらを表す場合、特別な記号を用いる。

(ア) 大文字符  □□

(capital sign)

固有名詞や文の初めなど、頭文字一文字だけが大き文字の場合に、その文字の前に用いる。

(例)



 George Washington

(イ) 二重大文字符  □□

(double capital sign)

単語全部が大き文字で書かれている場合に、その単語の前に用いる。

(例)



 MD (ミニディスク)

 ※ 
 のように一文字だけの単語には、

 I AM A CAT.

普通の大き文字符を用いるが、
 などの略字は、

 DO YOU LIKE ME?

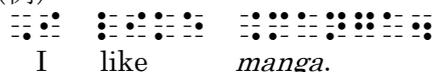
一文字ではなく一語であるから二重大文字符を用いる。

(ウ) イタリック符  □□

(italic sign)

特に注意をひくために、斜めの字体で書かれている単語の前にこれを用いる。イタリック符は読みにくいから、特に必要な場合にだけ用いるのがよい。なお、イタリック符は単語全部に及ぶものであるから、複合語のハイフンのあとで、再びイタリック符を用いる必要はない。

(例)



 I like *manga*.

(わたしはマンガが好きです。)

主な相違点は、次のとおりである。

(ア) コンマやセミコロンと読点や中点

コンマ（2の点）やセミコロン（2・3の点）は、促音符や古文の「ゐ」と重なるので、中点（5の点）や読点（5・6の点）は半マス後ろにずらしてある。また、中点や読点の用法は、コンマ・セミコロンのように厳密ではなく、点字は特にあいまいだった。

(イ) 英語の疑問符（2・3・6の点）と日本語の疑問符（2・6の点）

英語の疑問符は、enの略字□⠠□と重なるため、他の国とは別な記号□⠠□に変えている。

(ウ) コーテーションマークとかぎ類

□⠠□⠠ → □⠠□⠠ □⠠□⠠ □⠠□⠠ 又は □⠠□⠠ □⠠□⠠
“ ” 「 」 「 」
□⠠□⠠ □⠠□⠠ → □⠠□⠠ □⠠□⠠
‘ ’ 『 』

などのように、英語と日本語の記号は異なっているが、撥音符の□⠠□（ん）と重なるのでやむを得ない。

(エ) 角括弧□⠠□⠠□⠠□⠠（英語）と□⠠□⠠□⠠□⠠（日本語）

ワ行の「ワ」のため、点が上がっている。

(オ) ダッシュと棒線

□⠠□⠠□⠠ → □⠠ □⠠ □⠠□⠠ □⠠□⠠ などと高さやマスあけが異なるが、かぎや長音符と
ダッシュ 棒線

の混同を避けるためやむを得ない相違点である。

(カ) エリプシスと点線

□⠠□⠠□⠠ → □⠠ □⠠ □⠠□⠠ などとその高さが異なっているが、ワ行の「ワ」と
エリプシス 点線

の混同を避けるためやむを得ない。

(キ) 文字符と外文字符及び外国語引用符

□⠠□⠠は、英語では点字略字ではないアルファベットそのものであることを示すが、日本語では外国の文字であることを示し、意味が異なる。また、□⠠□⠠□⠠は、英語ではコーテーションマークだが、日本語では外国の語句や文字を表す記号である点が異なっている。

☆ 辞書や参考書又は試験問題などで、これらが混ざって出てきたとき、その使い分けを注意する必要がある。

(4) 発音記号の書き方

単語の発音を点字で表記する記号として、日本では Daniel Jones 式の発音表記を基に、1933年にイギリスで決められたものが使われている。現在、発音表記で一般的に使われている国際音声記号は、Daniel Jones 式と比較すると、記号の数だけでなく補助記号も多く使われている。そのため、教科書及びこの資料編では、従来よりの表記を採用している。なお、国際音声記号の点字表記については、北米点字委員会 (BANA) 及び英国点字委員会 (BAUK) のホームページを参照して頂きたい。

① 発音記号に伴う符号

(ア) 発音記号符 □⠠□⠠□⠠

発音記号の前後を囲む。

(イ) 第一ストレス符 (primary stress sign)

□⠠ (4・5・6の点)

最も強いアクセントの母音の前に置く。

(ウ) 第二ストレス符 (secondary stress sign)

⠠ (4・5の点)

二番目のアクセントの母音の前に置く。

② 母音 (Vowel)

⠠⠠⠠⠠⠠	—	⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠
[i :]	see	[si :]	
⠠⠠⠠⠠	—	⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠⠠
[i]	in	[in]	
⠠⠠⠠⠠	—	⠠⠠⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠
[e]	bread	[bred]	
⠠⠠⠠⠠	—	⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠⠠⠠
[æ]	cat	[k æ t]	
⠠⠠⠠⠠⠠	—	⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠
[ɑ :]	father	[f á : ð ə r]	
⠠⠠⠠⠠	—	⠠⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠⠠⠠
[ɑ]	drop	[dr ɑ p] (米)	
⠠⠠⠠⠠	—	⠠⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠⠠⠠
[ɔ]	drop	[dr ɔ p] (英)	
⠠⠠⠠⠠⠠	—	⠠⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠
[ɔ :]	ball	[b ɔ : l]	
⠠⠠⠠⠠	—	⠠⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠⠠⠠
[u]	foot	[fut]	
⠠⠠⠠⠠⠠	—	⠠⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠
[u :]	moon	[mu : n]	
⠠⠠⠠⠠	—	⠠⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠⠠⠠
[ʌ]	cup	[k ʌ p]	
⠠⠠⠠⠠⠠	—	⠠⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠
[ə :]	bird	[b ə : rd]	
⠠⠠⠠⠠	—	⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠
[ə]	America	[ə m é rik ə]	
⠠⠠⠠⠠⠠	—	⠠⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠
[ei]	face	[feis]	
⠠⠠⠠⠠⠠	—	⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠
[ou]	go	[gou]	
⠠⠠⠠⠠⠠	—	⠠⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠
[ai]	time	[taim]	
⠠⠠⠠⠠⠠	—	⠠⠠⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠
[au]	house	[haus]	
⠠⠠⠠⠠⠠	—	⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠
[ɔ i]	boy	[b ɔ i]	
⠠⠠⠠⠠⠠	—	⠠⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠
[i ə]	here	[hi ə r]	
⠠⠠⠠⠠⠠	—	⠠⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠
[e ə]	hair	[he ə r]	
⠠⠠⠠⠠⠠	—	⠠⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠
[ɔ :]	door	[d ɔ : r]	
⠠⠠⠠⠠⠠	—	⠠⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠
[u ə]	poor	[pu ə r]	

③ 子音 (Consonant)

⠠⠏	—	⠠⠏⠠⠎	⠠⠏⠠⠎
[p]		pen	[pen]
⠠⠃	—	⠠⠃⠠⠎	⠠⠃⠠⠎
[b]		box	[b a ks]
⠠⠞	—	⠠⠞⠠⠞	⠠⠞⠠⠞
[t]		tree	[tri :]
⠠⠔	—	⠠⠔⠠⠎	⠠⠔⠠⠎
[d]		desk	[desk]
⠠⠅	—	⠠⠅⠠⠔⠠⠅	⠠⠅⠠⠔⠠⠅
[k]		clock	[kl a k]
⠠⠒	—	⠠⠒⠠⠔	⠠⠒⠠⠔
[g]		good	[gud]
⠠⠞⠠⠇	—	⠠⠞⠠⠇⠠⠞	⠠⠞⠠⠇⠠⠞
[tʃ]		chair	[tʃ e ə r]
⠠⠔⠠⠞	—	⠠⠔⠠⠞	⠠⠔⠠⠞
[dʒ]		jump	[dʒ ʌ mp]
⠠⠞⠠⠎	—	⠠⠞⠠⠎	⠠⠞⠠⠎
[ts]		let's	[lets]
⠠⠔⠠⠞	—	⠠⠃⠠⠞⠠⠞	⠠⠃⠠⠞⠠⠞
[dz]		birds	[b ə : rdz]
⠠⠇	—	⠠⠇	⠠⠇
[m]		me	[mi :]
⠠⠎	—	⠠⠎	⠠⠎
[n]		net	[net]
⠠⠞	—	⠠⠎	⠠⠎
[ŋ]		sing	[si ŋ]
⠠⠞	—	⠠⠎	⠠⠎
[l]		lily	[l í li]
⠠⠇	—	⠠⠎	⠠⠎
[f]		four	[f ɔ : r]
⠠⠞	—	⠠⠎	⠠⠎
[v]		of	[a v]
⠠⠞	—	⠠⠎	⠠⠎
[θ]		thank	[θ æ ŋ k]
⠠⠞	—	⠠⠎	⠠⠎
[ð]		this	[ð is]
⠠⠞	—	⠠⠎	⠠⠎
[s]		sea	[si :]
⠠⠞	—	⠠⠎	⠠⠎
[z]		is	[iz]
⠠⠞	—	⠠⠎	⠠⠎
[ʃ]		ship	[ʃ ip]
⠠⠞	—	⠠⠎	⠠⠎
[ʒ]		usual	[j ú : z u ə l]
⠠⠞	—	⠠⠎	⠠⠎
[r]		red	[red]
⠠⠞	—	⠠⠎	⠠⠎
[h]		hand	[h æ nd]
⠠⠞	—	⠠⠎	⠠⠎
[w]		woman	[w ú m ə n]

 —  
 [j] yes [jes]
 —  
 [hw] white [hwait]

(5) 点字略字の解説 I

第2学年からは、アメリカやイギリスで現在普通に用いられている英語点字を学ぶ。第1学年で学んだアルファベットや句読符の他に、点字独特の略字を、よく出てくる単語や綴り字のグループを表すために用いる。点字略字は、主として読む速さ、特に黙読の速さを普通の文字を読む速さに近付けるために用いられている。さらに、書く速さは、略字を用いれば普通の文字を書く速さより断然速くなる。そこで、中学生のうちにその記号や使い方をマスターして高等部の教科書や外国の本を自由に読みこなし、英語を一層正確に速く書くことができるようになる。

① 1マスの短縮語 (One - cell Whole - word Con - tractions)

(ア) アルファベットと同じ形のもの

 — but  — can  — do

 — every  — from  — go

 — have  — just (ちょうど)

 — knowledge (知識)  — like

 — more  — not  — people

 — quite  — rather (むしろ)  — so

 — that  — us  — very

 — will  — it  — you  — as

(イ) その他の1マスの短縮語

 — and  — for  — of  — the

 — with  — child  — shall

 — this  — which  — out

 — still (まだ)

② 使い方

これら34語は、単語全体を1マスの記号で表す短縮語である。1マスであっても文字ではなく単語であるから、その前後ろを1マスあける。ただし、次の場合は、マスあけしない。

(ア) コンマ，セミコロン，コロン，ピリオドなどの句読符とは続ける。

(イ) 大文字，イタリック符など点字独特の記号とは続ける。

(ウ) a 及び and, for, of, the, with の五つの短縮語が連続する場合，互いに続け合う。

(使い方の例)

     better,  or  ?

 : I   better.   nice.

→ Tom : Which do you like better, this or that ?
 Bill : I like this better. It's very nice.

(トム：あなたは、これとあれと、どちらが好きですか。
ビル：このほうが好きです。とてもすてきだよ。)

→ He can't go out. But we will go out.
(彼は、外出できません。でも、ぼくたちは、外出します。)

→ What shall I do?
(どうしようか。)

→ You can go with us.
(あなたは、私たちといっしょに行けます。)

→ "You're not as big as that boy."
(君は、あの男の子ほどそんなに大きくはない。)

→ The child of the man wants to have a cat with black eyes and a dog with a long tail.
(その男の人の子供は、黒い目の猫と長いしっぽの犬を、飼いたがっている。)

→ A nation is for the people's happiness.
(国家は人々の幸福のためにあるのです。)

(使ってはならない例)

→ He likes apples. (He likes apples.) の likes を ls と書いてはならない。また、He goes out. (He goes out.) の goes を ges と書いてはならない。

→ Bill does not like the peoples. (Bill does not like the peoples.) の does を des と書いてはならない。また、peoples を ps と書いてはならない。

③ 学習のヒント

(ア) アルファベットと同じ形のもののうち、it と as 以外は頭文字で表している。また a, i, o はそれだけで単語になるから略字には用いない。

(イ) do, go, like, people などの短縮語は、1 マスで語全体を表すから、活用語尾や複数の - s, - es が付く場合には、用いることができない。

(ウ) □:□ や □:□ など、単語の一部を短縮する点字略字として用いられる場合については、後に学ぶ。

(エ) “b but, but b” などと、唱えて記憶するのもよい。

(6) 点字略字の解説Ⅱ

① 2マスの短縮語 (Two - cell Initial - letter Con - tractions)

(ア) 5の点と組み合わせるもの

⠠⠠ — day ⠠⠠ — ever ⠠⠠ — father

⠠⠠ — here ⠠⠠ — know ⠠⠠ — lord (君主)

⠠⠠ — mother ⠠⠠ — name ⠠⠠ — one

⠠⠠ — part ⠠⠠ — question ⠠⠠ — right

⠠⠠ — some ⠠⠠ — time ⠠⠠ — under

⠠⠠ — work ⠠⠠ — young ⠠⠠ — there

⠠⠠ — character (性格) ⠠⠠ — through

⠠⠠ — where

⠠⠠ — ought (ought to ~ …すべきである)

(イ) 4・5の点と組み合わせるもの

⠠⠠ — upon ⠠⠠ — word ⠠⠠ — these

⠠⠠ — those ⠠⠠ — whose

(ウ) 4・5・6の点と組み合わせるもの

⠠⠠ — cannot ⠠⠠ — had ⠠⠠ — many

⠠⠠ — spirit (精神) ⠠⠠ — world ⠠⠠ — their

② 使い方

これらの33語は、前置点と頭文字との2マスで表した短縮語である。これらの前後ろは、1マスあける。ただし、次の場合は、マスあけしない。

(ア) コンマ、セミコロン、コロン、ピリオドなどの句読符とは続ける。

(イ) 大文字、イタリック符などの点字独特の記号とは続ける。

(ウ) これらが語の一部であっても、元の発音を残し、意味が不明瞭にならない場合は、これらを他の綴りと続けて用いることができる。

(使い方の例)

⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠

→ Do you know the name of my mother?

(あなたは、ぼくの母の名前を知っていますか。)

⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠

→ Their father had many younger sisters.

(彼らの父親には、妹がたくさんいました。)

⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠

→ There are some people under the tree.

(その木の下に何人かの人があります。)

→ Those people cannot go there.
(あの人たちは、そこへ行けません。)

→ These people are very young.
(この人たちは、とても若い。)

→ Many boys and girls are here and there.
(たくさんの男の子や女の子があちこちにいます。)

→ All right, Mother!
(いいよ、お母さん。)

→ Where do you come from? Where do you go?
(どこから来て、どこへ行くの。)

→ Once upon a time, there was an old man.
(むかし、むかし、ひとりのおじいさんがいました。)

→ Whose one is this?
(これは、だれのものでしょうか。)

→ The dog ran through the woods.
(その犬は、森を走り抜けた。)

→ I cannot work there.
(私は、そこでは働けない。)

→ Have you ever seen the young man?
(今までにその青年に会ったことがありますか。)

→ May I ask you a question?
(質問してもいいですか。)

→ Asia is a part of the world.
(アジアは、世界の一部です。)

→ Sunday

→ everybody

⠠⠠⠠ (many) ⠠⠠ (more)
 ⠠⠠ (can) ⠠⠠⠠⠠ (cannot)
 ⠠⠠ (have) ⠠⠠⠠⠠ (had) ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (had't)
 ⠠⠠⠠ (know) ⠠⠠⠠⠠⠠ (known) ⠠⠠ (knowledge)
 ⠠⠠ (this) ⠠⠠⠠⠠ (these)
 ⠠⠠ (that) ⠠⠠⠠⠠ (those)
 ⠠⠠⠠⠠ (they) ⠠⠠⠠⠠ (their) ⠠⠠⠠⠠ (them)
 ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (theirs)

(7) 点字略字の解説Ⅲ

① 省略語 (Abbreviations)

(ア) 最初の2マスを残して後ろを省略する場合

⠠⠠⠠ — about
 ⠠⠠⠠ — according (according to ~ . . . によれば)
 ⠠⠠⠠ — after ⠠⠠⠠⠠ — again ⠠⠠⠠⠠ — also
 ⠠⠠⠠ — because ⠠⠠⠠⠠ — before
 ⠠⠠⠠ — behind (…の後ろに) ⠠⠠⠠⠠ — below (下の方に)
 ⠠⠠⠠ — beneath (…の下に)
 ⠠⠠⠠ — beside (…のそばに)
 ⠠⠠⠠ — between ⠠⠠⠠⠠ — beyond (…の向こうに)
 ⠠⠠⠠ — blind (目の見えない) ⠠⠠⠠⠠ — either
 ⠠⠠⠠ — friend

(イ) 骨組みだけを残して、母音などを省略する場合

⠠⠠⠠ — children ⠠⠠⠠⠠ — could
 ⠠⠠⠠ — first ⠠⠠⠠⠠ — good
 ⠠⠠⠠ — him ⠠⠠⠠⠠ — its
 ⠠⠠⠠ — letter ⠠⠠⠠⠠ — little
 ⠠⠠⠠ — much ⠠⠠⠠⠠ — must
 ⠠⠠⠠ — paid (支払った) ⠠⠠⠠⠠ — quick

⠠⠠⠠ — said ⠠⠠⠠ — should
⠠⠠⠠ — such ⠠⠠⠠ — today
⠠⠠⠠ — tomorrow ⠠⠠⠠ — tonight
⠠⠠⠠ — would ⠠⠠⠠ — your
⠠⠠⠠⠠ — above (…の上に) ⠠⠠⠠⠠ — afternoon
⠠⠠⠠⠠ — afterward (後で)
⠠⠠⠠⠠ — against (…に向かって)
⠠⠠⠠⠠ — braille (点字) ⠠⠠⠠⠠ — great
⠠⠠⠠⠠ — together

(ウ) 最初の3マスを残して、後ろを省略する場合

⠠⠠⠠⠠ — across ⠠⠠⠠⠠ — almost
⠠⠠⠠⠠ — already ⠠⠠⠠⠠ — always
⠠⠠⠠⠠ — altogether (全く)
⠠⠠⠠⠠ — although (…だけれども)
⠠⠠⠠⠠ — immediate (直接の)
⠠⠠⠠⠠ — necessary (必要な)
⠠⠠⠠⠠ — neither (neither A nor B AもBも～ない)
⠠⠠⠠⠠ — o'clock
⠠⠠⠠⠠ — perhaps (たぶん)

(エ) … self, … selves が付く語の一部を省略する場合

⠠⠠⠠⠠ — myself ⠠⠠⠠⠠ — yourself
⠠⠠⠠⠠ — himself ⠠⠠⠠⠠ — herself
⠠⠠⠠ — itself ⠠⠠⠠⠠ — oneself
⠠⠠⠠⠠ — thyself (汝自身)
⠠⠠⠠⠠⠠ — ourselves
⠠⠠⠠⠠⠠ — yourselves
⠠⠠⠠⠠⠠ — themselves

(オ) e を省いて現在分詞を作る語の一部を省略する場合

⠠⠠⠠⠠ — conceive (思いつく)

⠠⠠⠠⠠⠠ — conceiving

⠠⠠⠠⠠ — deceive (だます) ⠠⠠⠠⠠⠠ — deceiving

⠠⠠⠠⠠ — declare (宣言する) ⠠⠠⠠⠠⠠ — declaring

⠠⠠⠠⠠⠠ — perceive (気がつく)

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ — perceiving

⠠⠠⠠⠠ — receive (受け取る) ⠠⠠⠠⠠⠠ — receiving

⠠⠠⠠⠠ — rejoice (喜ばせる) ⠠⠠⠠⠠⠠ — rejoicing

② 使い方

これら 76 語の省略語は、ひと続きに書き、行末でも切らない。また省略語の前後ろは、1 マスあける。ただし、次の場合は、マスあけしない。

(ア) コンマ，セミコロン，コロン，ピリオドなどの句読符とは続ける。

(イ) 大文字，イタリック符などの点字独特の記号とは続ける。

(ウ) これらから派生した語の場合など，発音や意味を不明瞭にしない限り，接頭辞や接尾辞と続けて用いる。その際，その派生語が行末に書ききれないときには，つなぎ目で切り，行末にハイフンを添えるが，省略語そのものは 2 行に分けてはならない。

(使い方の例)

⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠

→ Your friend must run after him.

(あなたの友達は，彼を追いかけねばならない。)

⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠

→ Their children will go there before lunch tomorrow.

(彼らの子供たちは，明日昼食前にそこへ行くだらう。)

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠

→ I'm always hungry every afternoon.

(私は，いつも午後は空腹です。)

⠠⠠⠠⠠⠠ → besides (その上)

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ → blindfold (目かくしをする)

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ → friendly (親しい)

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ → goodbye

⠠⠠⠠⠠⠠ → letters

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ → mustn't

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ → quicken (いそがせる)

⠠⠏⠑⠑⠗⠑ → hereafter (今後)

⠠⠑⠗⠑ → yours

(使ってはならない例)

drafter [dr æ ft ə r] (draft - er) (製図器) を ⠠⠑⠗⠑ と書いてはならない。
(※音節注意)

shoulder [ʃ ó uld ə r] (肩) を ⠠⠑⠗⠑ と書いてはならない。
(※発音注意)

③ 学習のヒント

(ア) 省略語の使い方は、2マスの短縮語と原則的には同じである。

(イ) 省略語を読み、その綴りを言ったり、逆に綴りを読みながら省略語を言うなどして記憶するのもよい。

(ウ) 省略語は数も多く、初歩の読み物では、あまり多く出てこないものもあるので、教科書に出てきた順序に記憶しておくのもよい方法である。

(エ) 意味と関連させて整理するのもよい。

(参考例)

⠠⠑⠗⠑ (blind) ⠠⠑⠗⠑⠑ (braille)

⠠⠑⠗⠑ (child) ⠠⠑⠗⠑⠑⠑ (children)

⠠⠑⠗⠑ (either) ⠠⠑⠗⠑⠑⠑ (neither)

⠠⠑⠗⠑ (can) ⠠⠑⠗⠑⠑ (could) ⠠⠑⠗⠑⠑⠑⠑⠑⠑⠑ (couldn't)

⠠⠑⠗⠑ (shall) ⠠⠑⠗⠑⠑ (should) ⠠⠑⠗⠑⠑⠑⠑⠑⠑⠑ (shouldn't)

⠠⠑⠗⠑ (will) ⠠⠑⠗⠑⠑ (would) ⠠⠑⠗⠑⠑⠑⠑⠑⠑⠑⠑ (wouldn't)

⠠⠑⠗⠑⠑ (little) ⠠⠑⠗⠑⠑⠑ (much) ⠠⠑⠗⠑⠑⠑ (many) ⠠⠑⠗⠑ (more)

⠠⠑⠗⠑⠑ (after) ⠠⠑⠗⠑⠑⠑ (before)

⠠⠑⠗⠑⠑⠑ (between) ⠠⠑⠗⠑⠑⠑ (behind) ⠠⠑⠗⠑⠑⠑ (beside)

⠠⠑⠗⠑⠑⠑ (below) ⠠⠑⠗⠑⠑⠑ (beneath) ⠠⠑⠗⠑⠑⠑ (under)

⠠⠑⠗⠑⠑⠑⠑ (already) ⠠⠑⠗⠑⠑⠑⠑⠑ (always)

⠠⠑⠗⠑⠑⠑⠑⠑⠑⠑⠑ (sometimes)

⠠⠑⠗⠑⠑⠑ (ever) ⠠⠑⠗⠑⠑⠑⠑⠑ (never)

⠠⠑⠗⠑⠑⠑⠑⠑ (say) ⠠⠑⠗⠑⠑⠑⠑ (said)

⠠⠑⠗⠑⠑⠑⠑⠑ (pay) ⠠⠑⠗⠑⠑⠑⠑ (paid)

⠠⠑⠗⠑⠑⠑ (today) ⠠⠑⠗⠑⠑⠑ (tomorrow) ⠠⠑⠗⠑⠑⠑ (tonight)

⠠⠑⠗⠑ (you) ⠠⠑⠗⠑⠑⠑ (your) ⠠⠑⠗⠑⠑⠑⠑⠑ (yours)

⠠⠠⠠ — less ⠠⠠⠠ — ount

(イ) 5・6の点と組み合わせるもの

⠠⠠⠠ — ence ⠠⠠⠠ — ong ⠠⠠⠠ — ful

⠠⠠⠠ — tion ⠠⠠⠠ — ness ⠠⠠⠠ — ment

⠠⠠⠠ — ity

(ウ) 6の点と組み合わせるもの

⠠⠠⠠ — ation ⠠⠠⠠ — ally

③ 使い方

これら34の短縮部は、単語の中のそれに対応する綴り字を、1マスか2マスの記号に縮めて表すために用いられる。これらは、原則として同一の音節内で用いられ、接頭辞と語根の間、語根と接尾辞の間及び複合語の各要素の間をまたいでは用いられない。さらに、これらの使用が、発音や意味の理解を妨げる場合には用いない。また、同じ場所で二つ以上の短縮部の使用が可能な場合には、マス数を節約できる方が選ばれる。マス数が同じであれば1マスの短縮部が優先される。中でも、and, for, of, the, withの短縮部は、他に優先して用いる。これらの1マスと2マスの短縮部は、一部の例外を除いて、原則として句読符や点字独特の記号と続けて用いる。これらの使い方の細目は次のとおりである。

(ア) 1マスの短縮部の場合

and, for, of, the, withの短縮部は、単語のはじめの部分、単語の中の部分及び単語の後ろの部分のどの部分にも用いることができる。また、二つ以上の短縮部が用いられる可能性があるときは、節約できるマス数が同じ場合、これらが優先して用いられる。これらの五つの点字略字の短縮語としての用法は、既に点字略字の解説Iで説明されている。これらは、1マスの短縮語として用いられる場合も、1マスの短縮部として用いられる場合も、これらに対応する綴り字は、全く同じであるが、用法は異なるので、混同しないように注意する必要がある。

(使い方の例)

⠠⠠⠠⠠⠠ — Andrew ⠠⠠⠠ — candy

⠠⠠ — hand ⠠⠠ — form (型)

⠠⠠⠠⠠ — effort (努力) ⠠⠠⠠⠠⠠ — office

⠠⠠⠠ — soft ⠠⠠⠠ — roof (屋根) ⠠⠠ — then

⠠⠠⠠ — other ⠠⠠⠠ — without (…なしに)

(使ってはならない例)

professor (pro - fes - sor) (教授) を ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ と書いてはならない。

(※音節注意)

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (southeast) は複合語であるから、そのつなぎ目をまたいで

⠠⠠⠠⠠⠠ とは書けない。

(イ) ⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠ □⠠⠠□ □⠠⠠□ の八つは、これらで表される短縮語と短縮部の用法は異なる。また、□⠠⠠□以外の七つは、短縮される綴り字の範囲も、短縮語と短縮部で異なっている。ch, gh, sh, th, wh, ed, er, ou, ow, st, ar, en, inの短縮部は単語のはじめの部分、単語の中の部分及び単語の後ろの部分のどの部分にも用いることができる。ただし、en, inの短縮部と短縮部などの下がり記号が二つ以上続く場合には、前か後ろに1の点か4の点、又は1・4の点を含む記号がない限り、en, inを表す短縮部を用いない。

(使い方の例)

⠠⠠⠠⠠⠠ → church

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ → childlike (子供らしい)

⠠⠠⠠⠠ → ghost (幽霊) ⠠⠠⠠⠠⠠ → eight

⠠⠠⠠ → she ⠠⠠⠠⠠ → wash

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ → fisherman (漁師)

⠠⠠⠠⠠⠠ → three ⠠⠠⠠⠠⠠ → teeth (歯の複数形)

⠠⠠⠠⠠ → what ⠠⠠⠠ → who

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ → educate (教育する)

⠠⠠⠠⠠⠠ → liked ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ → catcher

⠠⠠⠠⠠ → touch ⠠⠠⠠ → our

⠠⠠⠠ → own (・・・自身の) ⠠⠠⠠ → how

⠠⠠⠠⠠ → best ⠠⠠⠠⠠⠠ → sister

⠠⠠⠠⠠ → start ⠠⠠⠠ → arm

⠠⠠⠠⠠⠠ → aren't ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ → weren't

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ → haven't ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ → English

⠠⠠⠠⠠ → often ⠠⠠⠠ → ink ⠠⠠⠠⠠ → think

⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠

→ Her dress is made of fine linen.

(彼女のドレスは、上等の麻で作られている。)

(使ってはならない例)

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (lighthouse) は、複合語であるから、そのつなぎ目をまたいで、

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠とは書けない。

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (mistake) の接頭辞と語根の間をまたいで、⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠とは書けない。

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (grasshopper) (grass - hopper) (きりぎりす) は、複合語であるから、そのつなぎ目をまたいで、⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠とは書けない。

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (rawhide) (生皮) も、同じく⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠とは書けない。

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (freedom) (自由) の語根と接尾辞の間をまたいで、⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠とは書けない。

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (stateroom) (state - room) (特等室) は、複合語であるから、そのつなぎ目をまたいで、⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠とは書けない。

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (phoenix) (不死鳥) は、音節をまたいで⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠とは書けない。

(ウ) ble, ing を表す短縮部は、単語のはじめには用いない。単語の中の部分、単語の後ろの部分及び2行にまたがる単語の次の行のはじめには用いる。ただし、接頭辞が加わって単語の中の部分になった場合には、もとの形を変えないため用いない。

(使い方の例)

⠠⠠⠠ → able ⠠⠠⠠⠠ → standing

⠠⠠⠠⠠ → singing ⠠⠠⠠⠠ → table

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (※ここで行替えする場合)

⠠⠠ → morning

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (※ここで行替えする場合)

⠠⠠ → Bible (聖書)

(使ってはならない例)

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (blemish きず) の ble は、語のはじめだから、⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠とは書けない。

(エ) 2マスの短縮部の場合

2マスの短縮部は、単語のはじめには用いない。単語の中の部分、単語の後ろの部分及び2行にまたがる単語の次の行のはじめに用いる。ただし、ハイフンやアポストロフィーの後及び接頭辞が加わって、単語の中の部分になった場合には用いない。また、2マスの短縮部は、短縮語として語全体を表すために用いることは決してない。

(使い方の例)

⠠⠠⠠⠠ → round ⠠⠠⠠⠠ → sound

⠠⠠⠠⠠ → dance

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ → assistance (手伝い)

⠠⠠⠠⠠⠠ → danced ⠠⠠⠠⠠⠠ → dancer

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ → television (テレビ)

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ → useless (役に立たない)

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ → mountain

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ → country

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ → science

が表す綴り字とは同じであるが、短縮語と短縮部の用法は、異なっている。

(ウ) **ble** と **ing** を表す 1 マスの短縮部は、2 マスの短縮部と用法が似ている。**ble** や 2 マスの短縮部が語のはじめに用いられないのは、数符、イタリック符、大文字符、又は文字符などと混同されるのを避けるためである。また、ハイフンの後ろに、これらが用いられないのも、同じ理由によるものである。

(エ) 2 マスの短縮部は、一連の綴り字（多くは接尾辞）の最後の文字に 3 種類の点を前置したものである。

(オ) 短縮部は、読み方から先に学ぼう。書き方を正確に学ぶためには、語源や接頭辞、接尾辞、又は音節の区切り方を学ぶ必要があるからである。

(10) 点字略字の解説 VI

① 下がり記号の短縮部 (Part - word Lower - sign Contrac - tions)

(ア) 単語の始めの部分にだけ用いるもの

⠠⠠⠠ — be ⠠⠠⠠ — con ⠠⠠⠠ — dis ⠠⠠⠠ — com

(イ) 単語の中の部分にだけ用いるもの

⠠⠠⠠⠠⠠ — ea ⠠⠠⠠⠠⠠ — bb ⠠⠠⠠⠠⠠ — cc

⠠⠠⠠⠠⠠ — dd ⠠⠠⠠⠠⠠ — ff ⠠⠠⠠⠠⠠ — gg

② 使い方

句読符と同じように、1 の点も 4 の点も含んでいない下がり記号の短縮語は、互いに続けられないことを既に学んでいる。**en** と **in** の綴り字を表す二つの短縮部だけは、下がり記号であっても、制限つきではあるが、他の 1 マスの短縮部と共に単語の終わりの部分にも用いることができた。しかしながら、ここで扱う 10 個の下がり記号の短縮部は、単語のはじめか中のどちらか一つの部分にしか使えず、その用法も厳しく制限されている。

(ア) **be**, **con**, **dis** を表す短縮部は、単語のはじめか 2 行にまたがる単語の次の行のはじめの音節に用いる。さらに、複合語のハイフンの後ろ及びダッシュやアポストロフィーの後ろに続けて用いる。また、大文字符やイタリック符の後ろに続けて用いる。なお、これらは、単語のはじめの部分にだけ用いるものであるから、ハイフンの後ろや次の行のはじめにこれらの綴りだけがきてその単語が終わる場合には用いない。

(使い方の例)

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ → believe

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ → discover (発見する)

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ → concert (コンサート, 演奏会)

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ → self - control (自制)

(使ってはならない例)

⠠⠠⠠⠠ (best) の **be** は、独立した 1 音節ではないので、⠠⠠⠠⠠とは書けない。

⠠⠠⠠⠠ (dish) も、同じく ⠠⠠⠠⠠とは書けない。

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (unbelievable) (信じられない) の **be** は、接頭辞の **un** と結合

して、語の中の部分となったので、⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠とは書けない。

(イ) **com** を表す短縮部は、語のはじめか、2 行にまたがる単語の次の行のはじめに用いる。この場合、**com** だけで 1 音節を構成していてもよい。また、大文字符やイタリック符と続けて用いる。この記号は、同じ点から構成されているので、ハイフン、ダッシュ、アポストロフィーと続けては用いられない。

(使い方の例)

⋮⋮ → come ⋮⋮⋮⋮⋮⋮ → computer

⋮⋮⋮ → comment (簡単な注釈や批評)

(ウ) bb, cc, dd, ff, gg を表す 5 個の短縮部は、単語の中だけに用い、単語のはじめの部分や終わりの部分には用いられない。接頭辞や複合語を構成する要素が前に来たり、接尾辞のうち、ed, en, er, ing が後ろに続いたため、これらが単語の中ほどに来た場合は用いてもよい。これらは、意味の理解を妨げない限り、接頭辞と語根の間の音節をまたいで使用してもよい。しかし、複合語の要素の間及び語根と接尾辞の間はまたがない。さらに、ハイフンやアポストロフィーとは続けて用いない。

(使い方の例)

⋮⋮⋮ → added (付け加えた) ⋮⋮⋮ → eggs

⋮⋮⋮⋮⋮ → different

⋮⋮⋮⋮ → hobby (趣味)

⋮⋮⋮⋮ → bigger

⋮⋮⋮⋮⋮⋮ → address (住所)

⋮⋮⋮⋮⋮⋮ → accident

⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮ → difficult

(使ってはならない例)

⋮⋮⋮ (add) の dd は、語の終わりの部分であるから、⋮⋮とは書けない。

⋮⋮⋮ (egg) も、⋮⋮とは書けない。

⋮⋮⋮⋮⋮ (wedding) (結婚式) の dd は、語根と接尾辞の間の音節をまたいでいるから、⋮⋮⋮⋮⋮とは書けない。

⋮⋮⋮⋮⋮ (effort) の場合、マス数が増えるので、⋮⋮⋮⋮⋮⋮とは書けない。

⋮⋮⋮⋮⋮ (office) の of は ff に優先されるので、⋮⋮⋮⋮⋮⋮とは書けない。

⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮ (ebb - tide 引き潮) の bb は、ハイフンと続いているので、⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮とは書けない。

(エ) ea を表す短縮部は、単語の中だけに用い、単語のはじめの部分や単語の後ろの部分には用いない。接尾辞を加えたり、複合語の要素が後ろに来て、単語の中の部分となれば、これを用いるが、逆に、接頭辞や複合語の要素が前に来て、単語の中の部分となった場合は、これを用いない。接頭辞と語根、語根と接尾辞及び複合語の各要素間などの音節を越えてこれを用いない。さらに、ハイフンやアポストロフィーとは続けない。

(使い方の例)

⋮⋮⋮ → mean ⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮ → beautiful

⋮⋮⋮⋮⋮ → teacup ⋮⋮⋮⋮⋮⋮ → seashore (海岸)

(使ってはならない例)

⋮⋮⋮ (eat) の ea は、語のはじめの部分であるから、⋮⋮とは書けない。

⋮⋮⋮ (tea) の ea は、語の後ろの部分であるから、⋮⋮とは書けない。

⋮⋮⋮⋮⋮⋮ (southeast) の ea は、複合語の要素が前に来て、単語の中の部分となったのであるから、⋮⋮⋮⋮⋮⋮とは書けない。

⋮⋮⋮⋮⋮⋮ (uneasy) (不安な) の ea は、接頭辞が前にきて、単語の中の部分となったものであるから、⋮⋮⋮⋮⋮⋮とは書けない。

⋮⋮⋮⋮⋮⋮ (changeable) (変更可能の) の ea は、語根と接尾辞の間の音節をまたいでいるので、⋮⋮⋮⋮⋮⋮とは書けない。

⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮ (pineapple) (パイナップル) の ea は、複合語の各要素の間の音節をまたいでいるので、⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮とは書けない。

⋮⋮⋮ (year) の ar は、ea より優先されるので、⋮⋮⋮とは書けない。

⋮⋮⋮⋮⋮ (theater) の the も、ea より優先されるので、⋮⋮⋮⋮⋮とは書けない。

⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮ (sea - snake) (海へび) の ea は、ハイフンとつながっているもので、⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮とは書けない。

⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮ (sou'east) (southeast の短縮形) の ea は、アポストロフィーとつながっているもので、⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮とは書けない。

③ 学習のヒント

下がり記号の短縮語と短縮部を、句読符と共に前後ろのマスあけの関係で関連付けて整理するとよい。

2の点は、前に続けるとコンマになり、前後ろに続けると ea の短縮部となる。しかし、後ろにだけ続けたり、前後ろをあけたりする場合はない。

2・3の点は、前に続ければセミコロン、前後ろに続けると bb の短縮部、後ろに続けると be の短縮部、前後ろをあけると be の短縮語となる。

2・5の点は、前に続けるとコロン、前後ろ続きが cc の短縮部、後ろ続きは con の短縮部となるが、前後ろあけはない。

また、2・5・6の点も、前続きは終止符、前後ろ続きは dd、後ろ続きは dis の短縮部で、前後ろあけはない。

2・6の点は、前、前後ろ又は後ろに続ければ、en の短縮部となり、前後ろあけはの短縮語となる。

2・3・5の点は、前に続ければ感嘆符、前後ろ続きが ff の短縮部、後ろ続きは to の短縮語であるが、前後ろあけはない。

2・3・5・6の点は、前に続ければ閉じ括弧、前後ろ続きは gg の短縮部、後ろ続きは開き括弧となり、前後ろあけは were の短縮語となる。

2・3・6の点は、前に続けば疑問符、後ろに続けばコーテーションマークの開き、前後ろあけは his の短縮語となるが、前後ろに続けるのはインナーコーテーションマークの開き程度

である。

3・5の点は、inを表すが、前後ろあけは短縮語、その他は短縮部である。3・5・6の点は、前に続けばコーテーションマークの閉じ記号で、後ろに続ければbyの短縮語、前後ろあけはwasの短縮語となるが、前後ろに続けるのはインナーコーテーションマークの閉じ程度である。

最後に、3・6の点は、前に続けば行末のハイフン、前後ろに続ければ普通のハイフン、後ろに続けるのはcomの短縮部となるが、前後ろあけはない。

④ 点字略字を学び終えて

これで、米英で普通に用いられている標準的な英語の点字を学ぶことができた。

まず、点字略字を用いない **grade I** の英語の点字を学んだ後、点字略字を含む **grade II** の英語の点字を六つの段階に分けて学んだ。最初の四つの段階は、単語全体を1マスや2マスの点字又は下がり記号に短縮して表す短縮語と、母音などを省略して2ないし5マスの文字などで単語全体を表す省略語であった。後の二つの段階は、1マスか2マスの点字又は下がり記号で、単語の一部を構成する綴り字のグループを短縮して表す短縮部であった。

なお、これらの六つの段階に点字略字を整理して、次の章に段階別一覧表を掲げた。これで、米英の書籍や雑誌及び盲学校高等部の点字の教科書を自由に読むことができ、英文を速く正確に書くための基礎的能力を習得したことになる。更に、一層正確に書くためには本書の後半に掲載された規則に完全に習熟することが必要である。